

第71回IOMA京都総会について

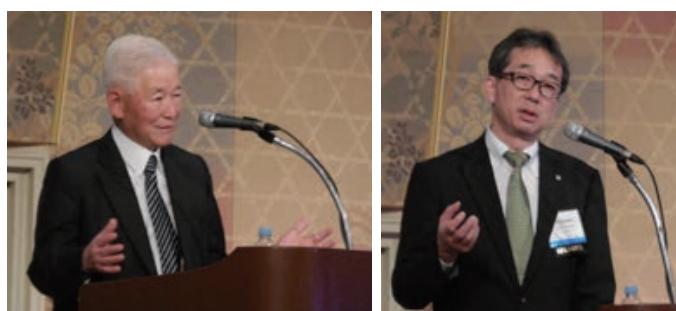
10月27～28日にウェスティン都ホテル京都にて、第71回IOMA京都総会が開催されました。日本での開催は平成4年の第49回東京総会以来22年ぶりとなり、海外から来日したIOMA会員を歓迎し、総会前日の26日夜、IOMAの日本会員会社により Japan Day が催されました。ビューッフェならびに屋台による料理、京舞・連獅子・邦楽のアトラクション、鏡開きなど、日本の伝統文化を取り入れた催しは多いに好評を博しました。



アトラクションとして行われた鏡開き

総会初日の午前に行われた講演会では、元日銀総裁福井俊彦氏による基調講演「世界経済の挑戦課題」を皮切りに、技術講演では岩谷産業の松岡美治氏から「燃料電池車実用化推進のための液化水素」が紹介されました。続いて、IOMAグローバル委員会サルツゲベール議長が「国際統合化活動の意義と目的をIOMA会員に理解してもらうこと」を目的にプレゼンテーションを行いました。特に、これまでIOMAグローバル委員会で議論されてきた「欧米亜日の4協会の専門家による、事故防止のための保安技術に関する基準文書の統合化活動についてIOMA会員により理解を深めてもらえるように広報活動を積極的に行うこと」の一環として、詳細な活動内容が報告されました。

午後に開催されたグローバル委員会でも、IOMA会員への国際統合化活動の理解を得るための広報活動を引き続き行うことが確認され、IOMAの会報誌「Broadcaster」へ統合化プロジェクト活動の記事を順次掲載することが決定、また国際統合化活動のプロモーションビデオ作成の検討が行われました。



福井俊彦氏による基調講演(左)・松岡美治氏による技術講演(右)



川上浩氏による
技術講演

2日目はJPモルガンのコール氏から基調講演「アジア経済の概要」が、技術講演では大陽日酸の川上浩氏から「酸素深冷分離による¹⁸Oの工業的製造」、さらにエア・リキードのブネ氏から「中国での石炭ガス化産業」が紹介されました。

最後に理事会役員から今回の総括、来年度の理事会新役員の紹介、ならびに来年11月7～11日の期間で第72回IOMA総会をイタリアのローマで開催することが報告され、第71回IOMA京都総会は成功裏に終了しました。（国際部会事務局・仲山 一郎）



理事会メンバーによる総会の様子

仲山一郎氏が「2014年IOMA国際統合化功労賞」を受賞

IOMA京都総会開催期間中の10月27日に行われたIOMA President Banquetにて、IOMA活動における功労者がメッサー理事長より発表され、2014年国際統合化功労賞が仲山一



国際統合化功労賞盾

郎氏（大陽日酸・現JIMGA国際部会事務局）に贈呈されました。

今回の受賞決定は、仲山氏の大陽日酸勤務時代における長年の国際統合化活動が、グローバル委員会で高く評価されたものです。表彰式では理事長より記念の盾が贈られました。

本賞の日本人受賞者は、2011年に鷲頭隆氏（エア・ウォーター・元JIGA専務理事）以来2人目です。（産業ガス部門・石原 智子）



受賞式の様子

第2回部門理事会・評議員会合同会議について

11月27日、メルパルク大阪で平成26年度第2回部門理事会・評議員会合同会議を開催しました。本会議には理事定数20名の内18名、評議員は産業ガス部門定数37名の内26名、医療ガス部門定数50名の内40名が出席しました。

始めに間会長が挨拶し、「超円高という事態は回避されたが、業種や地域によってアベノミクス効果が浸透していないというのが実感」とし、また「我々の業界に大きな負担となっている電力問題と燃料費の高止まり」に関して、「少しでも負担が軽減できるよう取り組んでいきたい」と意気込みを述べました。その後、議長に選出された間会長の進行により審議が進められました。審議事項は「入会希望事業者審査の件」で、全会一致で承認されました。その後、報告事項に移り、委員会や部会の半年間の活動状況、中間決算、電力問題・消費税増税への対応等の説明を行いました。詳細につきましては、平成27年3月発行の「産業ガスレポート」で報告予定です。

（広報委員会事務局・保坂 昭一）



挨拶する間会長

会員紹介 ー北酸高圧瓦斯株式会社ー

富山県の立山連峰で、国内で唯一の氷河が発見されたことをご存じですか。平成24年4月に立山連峰の雪氷体は、日本初の現存する氷河であると学術的に認められました。その美しい立山連峰からは毎年豊富な雪解け水が河川に流れ込みます。そのため黒部川水系をはじめとする急流河川が多く、大正9年に始まる県営水力発電計画の実施によって豊富な水力発電を背景に、電力王国として化学工場や大都市の大量電力消費型の工場が富山に誘致されました。そして昭和初期に入り、それら化学工場の製造過程において発生する副生ガスとの遭遇が、北酸株式会社における高圧ガス製造販売の原点となり、その後の北酸高圧瓦斯株式会社の設立へと繋がっております。

当社は北酸(株)のグループ会社として高圧ガスの製造並びに販売を目的に、昭和37年に設立されました。当初はリンデ式分離機による酸素・窒素の製造販売からスタートし、昭和42年より水素ガスの製造販売を開始。その後、順次設備を更新して、現在では酸素・窒素のほか炭酸・アルゴン・混合ガス類および医療用ガスの製造販売も併せて行っております。とくに設立時からの工場である高岡工場では、北陸地域の水素の供給拠点として、充てん能力1,100m³/hr (19.6MPa) の設備を有し、地域の水素需要にえています。

また、富山工場では北酸グループの環境基本方針の下、ISO14001認定を取得して環境保全活動を推進しています。

(資本金4,000万円・社員数22名・北酸(株)と日本曹達(株)の合併会社)



富山工場のセパレートガス・炭酸充てん所

JIMGAとの関わり

現在、JIMGA北陸地域本部の副本部長として、北陸において発生する放置容器や長期停滞容器の撲滅に向けた取り組みを行うとともに、消費者を対象とした高圧ガス消費者保安講習会の開催や会員による保安研修会を定期的に行っており、それらは北陸高圧ガス溶材組合との連携体制をとりながら進めています。

またJIMGA本部の技術・保安部会の充てん技術WGメンバーや水素企画委員会および水素技術WGメンバーとして毎年様々な課題に取り組み、積極的に活動しております。

(北酸高圧瓦斯株式会社

代表取締役社長・金田 龍弘)



高岡工場の水素トレーラ充てん所

JIMGA-EDIの運用が開始されました

電子データ交換標準化WGでは、高圧ガス業界において商取引情報のやり取りをより効率的に行うことができるよう、電子データを利用した取引の規格化を行いました。既にWGメンバーの会社間で規格に従ったデータ交換の試験が完了し、現在は実際に運用を開始する準備段階となっています。今後、各地域における説明会の開催を計画しますが、今回は説明会に先立ち、規格化された仕組み＝“JIMGA-EDI”の一端をご紹介します。

EDI (Electronic Data Interchange) の目的

EDIとは、「異なる企業間で、商取引のためのデータを、通信回線を介して標準的な規約を用いて、コンピュータ間で交換すること」とされています。例えば、受発注が電話やFAXで行われ、納品書等は郵送するといった方法で行われている取引では、それぞれの会社において受注入力や検収入力が必要となります。この取引をEDIで行うと、最初に発注者が用意したデータ（商品と数量など）を、その後の受注、出庫、入庫、検収、請求、支払の各段階において一貫して利用することができます。従って、取引の各段階におけるデータ入力の作業が不要となるためデータ入力の正確性と作業工数の削減が可能となるだけでなく、FAXや納品書・請求書郵送などの通信費が大幅に削減できます。

JIMGA-EDIで標準化した商取引

一部の会社間では、既にそれぞれの会社間で決められた方法に従って、EDIによる取引が行われています。しかし、別の会社とEDIによる取引を行おうとした場合、取引の方法を新たに取決める必要があるため、取引の相手毎に異なる手続きやデータを用意しなければならず、余計な手間がかかることとなります。そこでJIMGAでは、高圧ガス業界で共通に利用できるデータ交換の方法と手続きを標準化しました。これが“JIMGA-EDI”です。

標準化した業務は、大きく分けて①「マスタ登録（商品情報や会社情報）」②「見積依頼・見積回答」③「発注・受注」④「出庫・入庫」⑤「容器情報（充瓶・空瓶）」⑥「検収・請求」⑦「月次請求・支払」となります。（図1）

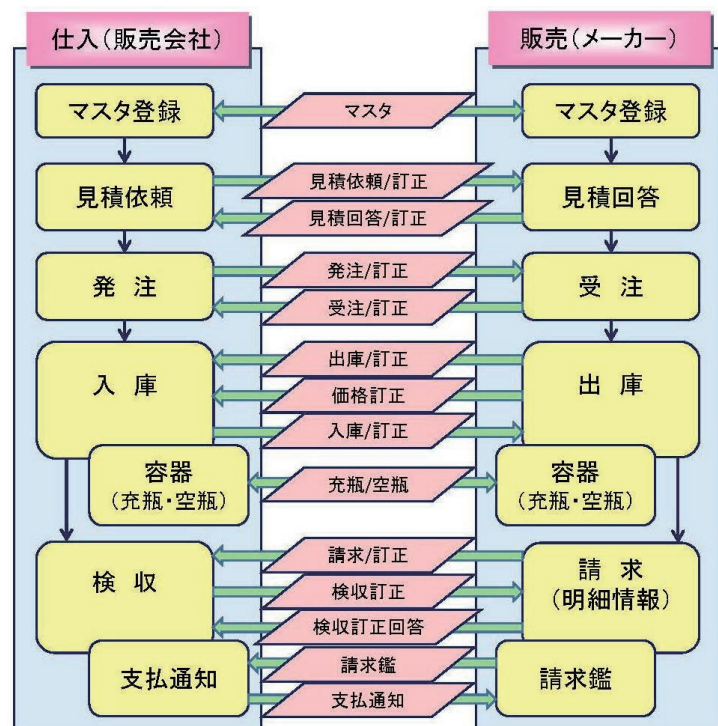


図1 JIMGA-EDIの標準化対象の業務と取引情報

EDI取引は会員の2社間で合意に基づいて行われますが、対象とする業務は上記①～⑦のすべてである必要はなく、部分的でも構いません。これらの業務に関する情報を決められた形式のデータファイルにして、インターネット接続されたコンピュータのWEB画面でアップロード・ダウンロードするか、専用のツールを利用してデータファイルの送受信を自動化することも可能です。(図2)

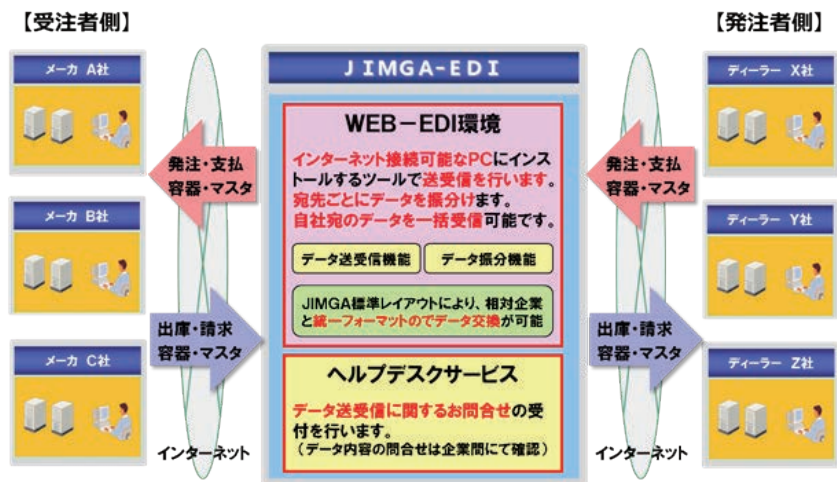


図2 JIMGA-EDIのデータ交換方法

JIMGA-EDIでできること

データを取引の一連の流れの中で一貫して利用できることから、業務の確実性が飛躍的にアップします。また前述の通り、取引業務にかかわる人的コストや通信費を大幅に削減することが可能です。

JIMGA-EDIに特徴的な点がもう一つあります。それは「容器情報」です。容器情報では、RFタグに記録されている全ての情報を交換することが可能です。すなわち、容器授受簿に必要な情報の交換が可能だということです。また容器の納入日や回収日をRFタグに書き込んで、EDIで情報を交換することによって、容器使用料の徴収にも利用することができます。

なお、JIMGA-EDIが対象としている商品分類および供給形態は表1の通りです。

利用にあたって

実際にご利用いただくには、インターネットに接続されたコンピュータが1台以上必要となります。また、株式会社日立システムズとの契約が必要となりますが、費用や手続きにつきましては、近日中にご案内する予定です。

今後、各地域にて説明会も計画しますので、どうぞご利用をご検討下さいますようお願い致します。

(電子データ標準化WG事務局・

保坂 昭一)

大分類	商品分類
ガス	バルク(ローリー)
	シリンダー
	特殊ガス
	預託品
	パイピング
その他	機器・商品
	工事
	費用(委託費、賃貸料等)
商流	請求書、支払通知
容器	容器管理
マスタ	マスタデータ

表1 JIMGA-EDIの対象商品分類、供給形態

新事務局員の紹介



名 前：渡邊 一也（わたなべ かずや）
 現住所：東京都足立区
 出身地：神奈川県
 生年月：1955年 8月
 略 歴：1980年 6月 大陽酸素(株)（現大陽日酸）入社
 1984年 3月 ダイヤ冷機工業(株)出向
 1991年 3月 鹿島酸素(株)出向
 1999年 7月 大陽東洋酸素(株)経理本部
 2006年 3月 大陽日酸(株)監査役会事務局
 2008年 7月 (株)ティーエムエアー出向
 2014年12月 JIMGA 経理部長

趣 味：子供の頃から将棋が好きで、高校選手権の神奈川県代表や、アマ名人戦の県代表になりましたが、現在は、自宅近くの公民館で毎週土曜日にヘボ碁を楽しんでいます。
 抱 負：会員の皆様との直接の接点は少ないと思いますが、JIMGAの黒子役として一日も早く会員の皆様に貢献できるように努めたいと思います。また、各事務局の方々には大変お世話になるとは思いますが、何卒よろしくお願ひいたします。

九州地域本部の事務所移転について

九州地域本部事務所は下記の通り移転し、12月8日より新事務所にて業務を開始しました。事務所移転を機に一層精励する所存ですので、皆様におかれましては倍旧のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

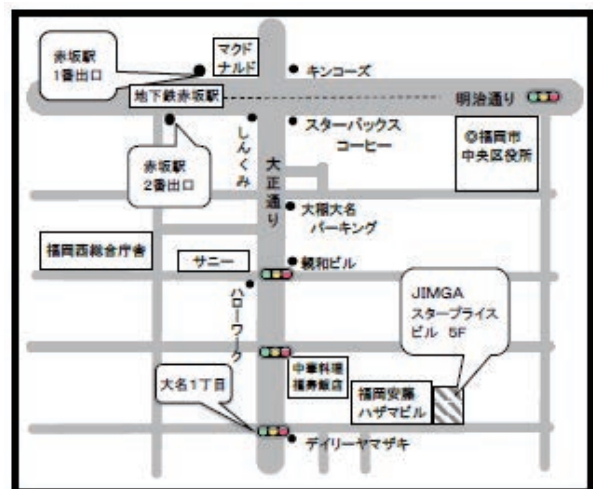
[新住所・連絡先]

〒810-0041 福岡市中央区大名1-8-7
 スタープライスビル5階
 TEL：092-715-8870 FAX：092-715-8871



事務所ビル外観

九州地域本部案内マップ



福岡市営空港線「赤坂」駅2番出口より徒歩5分